

第2章

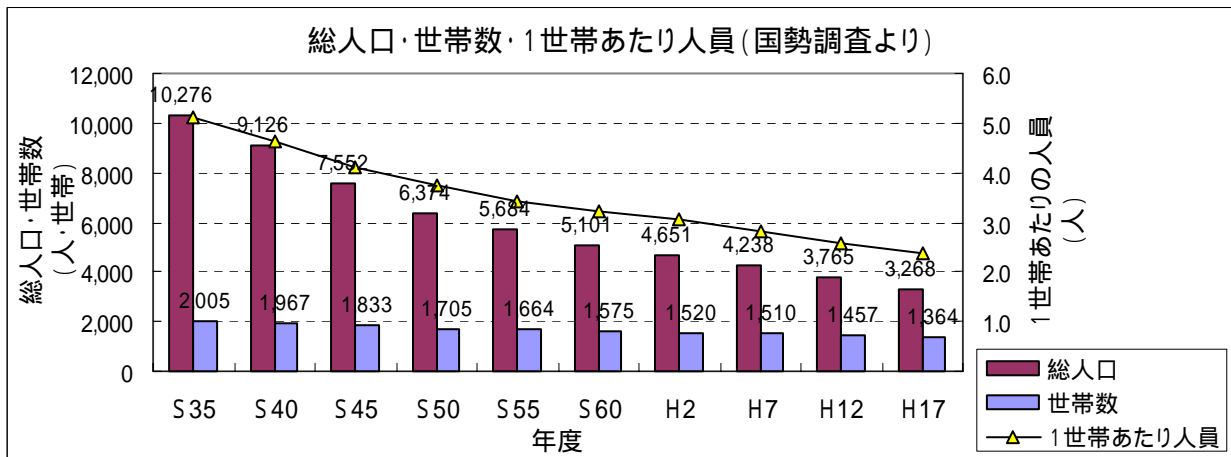
小値賀町の健康に関する現状と課題

小値賀町は五島列島の北部に位置し、本島を中心にその周辺に散在する大小 17 の島から成っています。総面積 25 km²の火山活動によって生じた珍しい群島で、町内全域が西海国立公園に指定されています。また、歴史的にも古く、肥前風土記にその名が記されており、往古は遣唐使の寄港地でもありました。

近年の市町村合併の動きにより、現在では、人口は約 3,300 人と、県内で最も小さな自治体となりました。

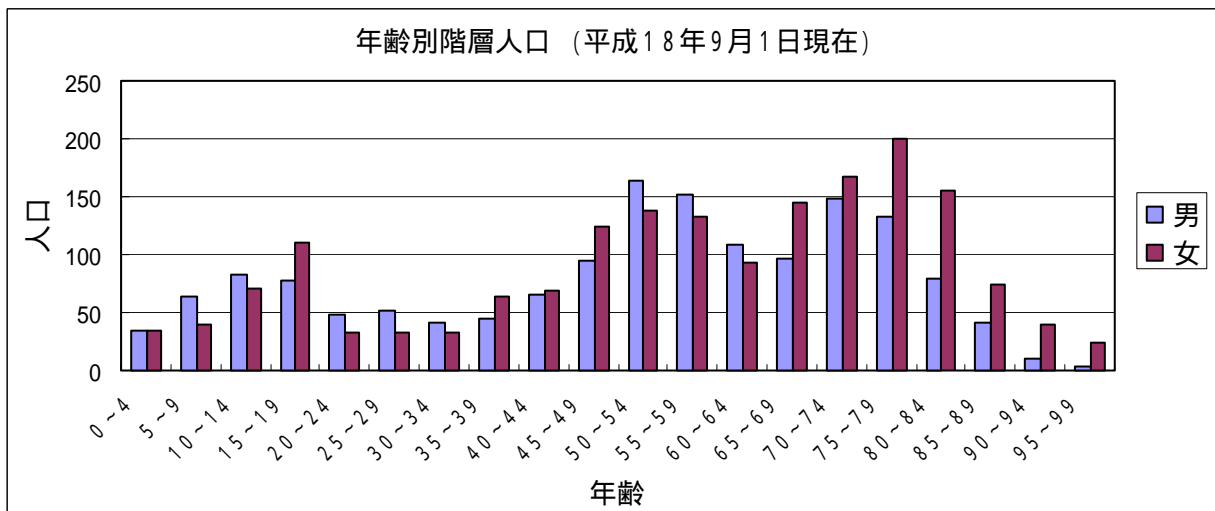
1 総人口・世帯数・1世帯あたり人員の推移

町の総人口は、昭和 25 年の 10,968 人をピークに毎年減少を続けており、平成 19 年 1 月では 3,286 人となっています。



2 年齢別階層人口

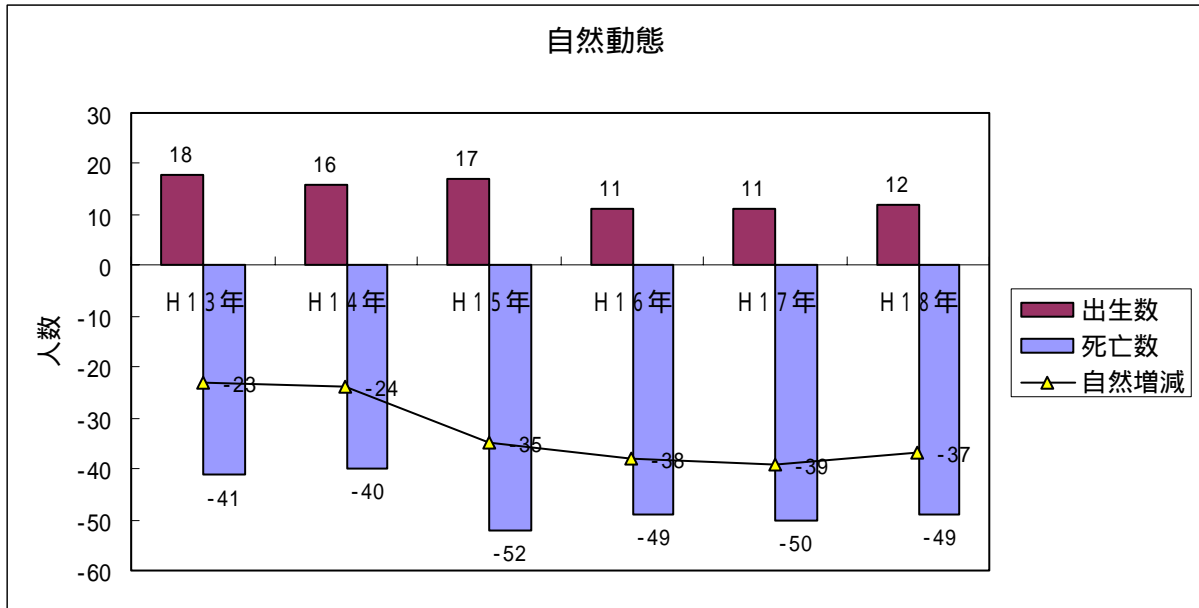
0~4 歳までの人口が約 70 人と、年々少子化が進んでいます。当町の場合、一世帯あたりの子どもが少ないというよりも、20~40 歳代の子どもを生む年齢の既婚者が少ないと考えられます。また、65 歳頃から女性の人口が男性に比べ多くなり出し、75 歳を過ぎてからは極端に男女の差が現れてきます。



3 人口の年次別自然動態及び社会動態

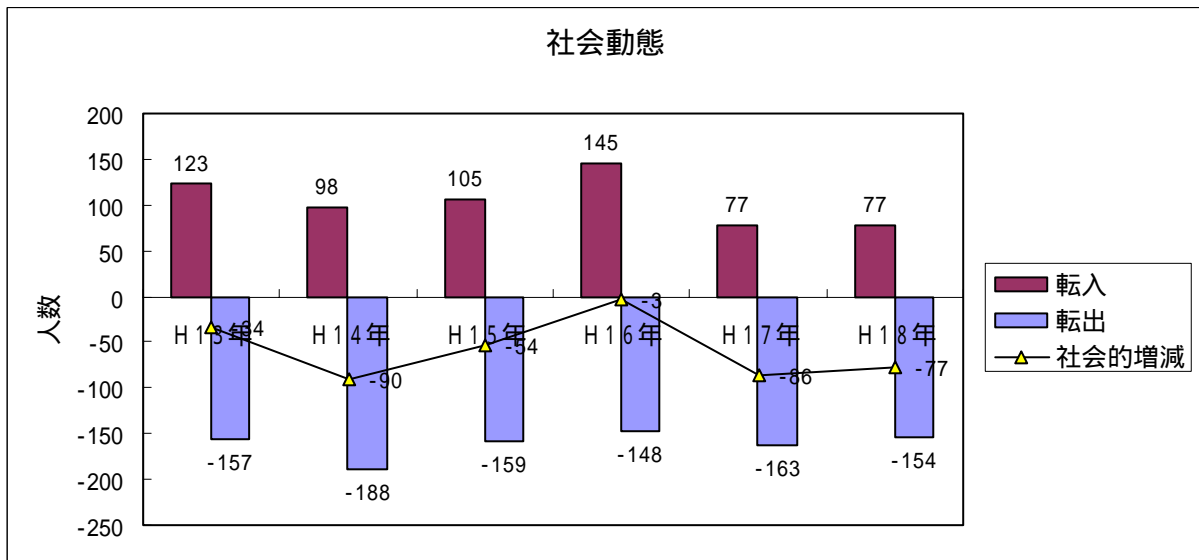
(1) 自然動態

死亡数は毎年 50 人前後であるのに対し、出生数は年々減少しており、自然減を示しています。



(2) 社会動態

毎年、転入者より転出者の方が多いため、社会的減を示しています。上記の自然動態の減少と合わさって、町の人口は毎年減少しています。



4 死因別死亡率の推移

これは、人口を 10 万人に想定した場合の死亡者の数をグラフにしたものです。小値賀町では対象者数が少ないため、僅かな数でも大きく影響を受けますが、悪性新生物（がん）による死亡者は毎年、全国平均、長崎県平均を大きく上回っています。脳血管疾患による場合は年度により大きく変動しています。

